

占い師の心を守るQ and A

Q1.「当てなければ価値がない」という恐れが消えません

A.

それは占いを「予言」に誤認しているサイン。

プロの占い師の価値は、未来を固定することではなく、選択肢を構造化することにある。当てるかどうかより、「相手が何を選べるようになったか」を評価軸に戻す。

Q2. 鑑定の結果に責任を感じすぎてしまいます

A.

責任は“決断”にではなく、“説明の誠実さ”にだけ持つ。

未来は相手の領域。

占い師が背負うのは、読みの根拠と伝え方まで。

Q3. 鑑定後の自己反省が止まりません

A.

反省は「改善」に変換されない限り、ただの自己攻撃。

プロは感情ではなく、技術として振り返る。

「次は何を一つ変えるか」だけを抽出して終える。

Q4. 厳しいカードを出すことに躊躇します

A.

厳しさを避けるのは優しさではない。

ただし“断言”ではなく“流れ”として提示する。

カードは裁きではなく、因果の説明図。

Q5. クライアントの感情に巻き込まれます

A.

それは境界線が曖昧になっている状態。

鑑定中は「共感モード」、鑑定後は「分析モード」へ必ず切り替える。

自分が愚者になる時間をもつこと。

Q6. 依存を生んでしまうのが怖いです

A.

依存はカードから生まれない。
占い師の言葉の使い方から生まれる。
「絶対」「私がいないと」という表現を手放すこと。

Q7. 他の占い師と比較して軸が揺れます

A.

比較は市場を見るために使うもので、自分を測る物差しではない。
「誰に、どの役割で使われたいか」を明確にしている。
軸は外に探さない。

Q8. ネガティブな相談が続くと感情が重くなります

A.

それは“感情の受信”が過剰な状態。
カードを感情ではなく構造で読む意識に戻す。タロットを構造で読むと、感情は自然に抜けていく。

Q9. クレームが来たら怖いです

A.

クレームは失敗ではなく、期待設計のズレ。
人格で受けず、設計で修正する。
傷ついたら、一度休むのも技術のうち。

Q10. 鑑定のエネルギー消耗が激しいです

A.

消耗の原因は“情報過多”か“感情過多”。また、話し過ぎていないか振り返ること。

Q11. 自分の占いの価値がわからなくなります

A.
人より多く持っていること（例えばタロット占いのスキル）を安定して言語化できているかを
冷静に見ること。
それがプロの価値。

Q12. 正解を提示しなければと思ってしまいます

A.
正解を出す人はコンサルタント。
占い師は「問いの質」を上げる人。
役割を混同しないこと。

Q13. 感情移入しすぎて苦しくなります

A.
それは未熟さではなく、調整不足。
感情移入は鑑定の入口まで。
出口では必ずカードに戻る。

Q14. 占い師としての覚悟が足りない気がします

A.
覚悟は気合ではない。
「自分の状態を整え続ける」と決めること。
それが唯一、長く続く覚悟。

Q15. この仕事を続けられるか不安です

A.
続く人は、心と体のバランスが取れている。
境界線・言語化・セルフメンテナンスをしていくこと。